

や大学などで行く「ふくい宇宙産業創出研究会」を立ち上げる。同機構事務局のふくい産業支援センターは、県内企業の参加を募っている。

県民衛星は、県の経済新戦略と、産官学に金融機関を加えて発足した同機構の目玉プロジェクトの一つ。将来的に人工衛星を製造し

て打ち上げ、県内企業の航空宇宙分野への参入を促す狙いがある。具体的な活用策の検討と並行し、衛星開発の技術研究を進めてい

研究会では会員企業と研究機関が情報を共有し、技術のマッチングを図って共

航空宇宙 県内企業

プロジェクトの概要説明のほかに、宇宙航空研究開発機構(JAXA)や人工衛星開発で実績のあるアクセルスペース(本社東京)の担当者、宇宙産業の現状な

プロジェクトの概要説明の(50)15055。メールはfoip@fisc.jp、FA X0776(55)1554、同センターのホームページからも申し込める。(前田卓)

インフラ再生、防災、環境…



VEEmaのブースで、井戸延命化の特許工法の説明を受けるフェア来場者—2日、福井市の県産業会館

最新の建設技術一堂

福井でフェア開幕 82社・団体出展

土木・建築分野の優れた技術を集めた「フクイ建設技術フェア2015」(福井新聞社後援)は2日、福井市の県産業会館で始まった。県内を中心に82の企業・団体の実行委員会が毎年開催し、

ことしで8回目。環境・エネルギー、情報などもテーマになっている。

建設コンサルタントの目新企画設計(福井市)は、高精度の電磁波レーダーで路面下の空洞や舗装の劣化を探索する「ロードスキャンビークル」を出展。車の前部に取り付けたアンテナによって地中を三次元で把握するシステムで「時速80キロでの探査が可能。1回の走行で2・1秒分の画像データが一度に取得できる」などとアピールした。

井戸改修などを手掛けるVEEma(福井市)は、高速旋回するノズルから超高压水を噴射し、井戸内側を洗浄する特許システムを紹介。び、泥、固形化したカルシウムなどを落とし、湧出量の増加や水質改善など「井戸の延命化が図れる」と説明した。

建設・土木・舗装の辻広組(福井市)は、ヒートロック工業(本社開発研究所・新潟市)が開発したコンクリートやアスファルトの路面を、ミリ単位で研削するFCチップ

企業研修、学生真剣に フクビ化学(福井)で県公開



幅広い分野の製品の説明を受けるインターンシップの学生たち—2日、福井市のフクビ化学工業

ングマシンを展示した。塗料などを施しやすい平らな仕上がりや、粉じんが出ない点などをPR。競技場などを施工

する際、施工への施工の全体像や進捗状況の説明に、マルチコプター(ドローン)を活用することも提案した。

3日は午後1時半から東京大名誉教授の月尾嘉男氏が「地域から変革する日本」と題して講演する。(山内弘司)

ユラムも組まれている。

ショールームでは、羽田空港展望台のデッキなどに使用されている合成木材や、遮熱パネル、窓枠、新幹線客室内の照明カバー、自動車スピードメーターパネルなど多様な製品を見学。担当社員から、それぞれの製法や技術、オリジナル性などを学んだ。

3日からは職場実習に入る。福井大工学部の小野田竜希さんは「インターネットでは知り得ない生の情報、技術を学びたい」と意欲を示し、近畿大生物理工学部の石山選手さんは「断熱材に関心がある。プレゼン力を身に付けたい」と話していた。

本年度の県インターンシップの企業研修は7月31日から始まり、9月25日まで行われる。昨年より56人多い505人が参加し、123社・団体が受け入れる。(山内弘司)

県と県経営者協会は2日、本年度の県インターンシップ事業の報道向け見学会を、福井市のフクビ化学工業(八木誠一郎社長)で開いた。同社では理系文系合わせて6人の県内外の大学3年生が長期研修中。うち5人が県事業での参加で、この日は本社工場やショールーム

を見学し、同社主力の住宅用資材などへの理解を深めた。同社のインターンシップは1日にスタート。12日までビジネスマナーを学び、理系学生は樹脂製品などの試作、文系学生は営業同行などの体験実習を行う。各自が製品をプレゼンテーションするカリキ

室を開く。9月3日募る。若者の人材ポットやネームプレートキーホルダー、ソーラーカーステーション作りなど5コースを用意する。午前9時から。対象は小学2~6年で参加無料。

申込書に必要事項を記入し、ファクスなどで申し込む。応募多数の場合は抽選。問い合わせは同センター—0778(23)1011。